



広報せき

Seki Gocoro

2026
06

No.1784



関市公式
Instagram

巻頭
特集

船

小瀬鵜飼の導き手
伝統を守り、継承する。

頭



Seki Gocoro 06

SEKI City Community Magazine

TOPICS

- せきのまちづくり通信簿6-7P
- 災害の備え10-11P
- INFORMATION14-35P



船

小瀬鵜飼の導き手
伝統を守り、継承する。

頭

毎年5月11日～10月15日にかけて、長良川河畔で小瀬鵜飼が行われます。小瀬鵜飼は二十有余年の伝統を誇り、「長良川の鵜飼漁の技術」として国の重要無形民俗文化財の認定を受けています。刃物産業とともに関市の観光産業の目玉として、訪れた皆さんに楽しんでいただいています。

鵜飼では巧みな手縄たなわさばきで鵜を操る鵜匠だけでなく、河川の状況を把握して操船する船頭の存在が欠かせません。今回の巻頭特集では小瀬鵜飼の伝統を守り、継承すべく活動する小瀬鵜飼の導き手、船頭について特集していきます。

照会先

観光課(☎23-7704)

文化財保護センター(☎45-0500)

船頭とは

鵜飼では鵜匠が乗る鵜舟と鵜飼を鑑賞する観覧船の2種類の船が使用されており、それぞれの船に船頭と呼ばれる人たちが搭乗しています。船頭たちは「**權**」と

「**棹**」の2種類の道具を巧みに使い分け、鵜舟と観覧船を付かず離れずの絶妙な距離で船を操ります。

船頭は長い歴史を誇る鵜飼漁にとって必要不可欠な存在であり、「縁の下の力持ち」「第2の主演」ともいえる重要な役割を担っています。



お 棹

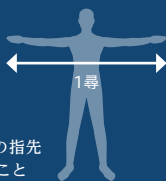
水深が浅いところで使用する道具。船の進みを早くするほか、川底にさして方向転換するために使用します。長さは3尋～4尋でオフシーズンに船頭自ら竹を切って準備しています。

棹の先端には固い木材がついていて、先端を尖らせて加工し、川底に刺さりやすくなるように船頭が自ら加工しています。



使用するうちに先端が削れて平らになってしまいます。

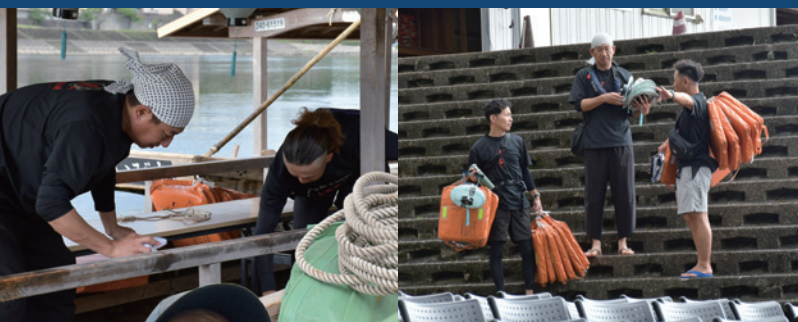
※尋とは、両手を横に広げた時の指先から反対側の指先までの距離のこと



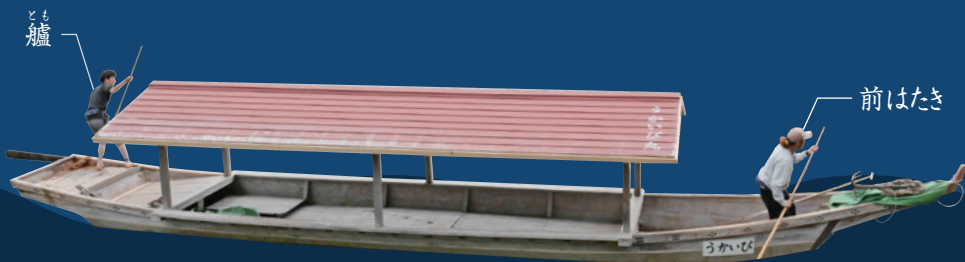
權繩で船に固定

かい 權

水深が深く、棹が川底に届かない場合に使用する道具。鵜が使用する權は權繩と呼ばれる縄で船に固定され、力強く船をこぐことができます。(まさつで船が消耗してしまうため、時折川の水をかけて冷ます必要があります)



私たちが小瀬鵜飼で乗船するのは観覧船と呼ばれる船です。船頭たちは出航前に緊急時に使用する救命座布団を設置したり、船内を掃除したりしてお客様を迎える準備をします。観覧船には最大20人のお客様が乗ることが出来る大船や、最大9人の小船、腰掛式で乗船できる特別船があり、1艘につき2人の船頭が乗船しています。



とも 艦

前はたき

船尾側に乗る船頭は「艦」、前方の船首側に乗る船頭は「前はたき」と呼ばれます。

艦は操船係として進路を決め、前はたきへ指示を出します。前はたきは前方を確認し、水底の岩盤に乗り上げないように船の進む方向を調整する役目を担います。





船頭への道のり

観覧船の船頭として最も大事なことは「訪れたお客様に安全に快適な環境で小瀬鵜飼を楽しんでいただくこと」です。そのため、船頭は優れた操船技術をも身につける必要があります。観覧船の操船は大自然を相手にするため、川の流れや雨・風といった天候の影響を受けま
す。また観覧船には屋根がついているため強風の影響を受けやすく、向かい風では思うように進まないこともあるそうです。そんな中、船頭たちは船が押し流されないように棹や櫂に体重を乗せて力強く船を操り、小瀬鵜飼を支えているのです。

船頭が培ってきた技術は一朝一夕で身につくものではありません。経験豊富な先輩船頭に実地で教わり、数年にわたって修行を積むことで、船頭としての「技」を習得することができます。こうして腕前を磨き確かな技術を身につけた1人前の船頭は「二等船頭」と呼ばれ、私たちが観賞する小瀬鵜飼で活躍しています。



兼業船頭

小瀬鵜飼の船頭は二十有余年の伝統を受け継ぐ大切な役割を担っています。一方で、将来高齢化による担い手の不足が懸念されています。そうした中、日中は別の仕事をしながら、夜には船頭として活動する「兼業船頭」という働き方があります。

小瀬鵜飼の伝統文化を支えながら自分らしい働き方を実現するといった選択肢が、小瀬鵜飼という伝統文化を未来へつなぐ新たな力となっています。

募集内容

年齢要件 50歳くらいまでが目安 ※体力に自信がある人

研修期間 100日程度

労働期間 4月下旬～10月15日
観覧船を川に卸している時期

研修時間 1日90分ほど 土曜日・日曜日の午前中ほか

賃金 日当2,000円(研修期間中)

※1人前になるまでに最低でも3年の研修期間が必要です。

9人乗りの観覧船のとことして1人で操船できるようになると1人前の船頭として認められます。

清酒製造業 × 鵜飼船頭



は た の ひろし
波多野 博さん

「個人ではなかなかできない『船を漕ぐ』体験ができ、川や船が好きなお人には、きっとやりがいのある仕事です」と船頭の魅力を話すのは、普段は蔵元で杜氏として従事し、オフシーズンには水上で船を操る波多野さんです。

船頭の仕事は「安全第一」。刻一刻と変わる川の状況を読み、瞬時に判断する力が求められます。波多野さんは「最初の頃は失敗ばかりで苦労も多かった」と振り返る一方、「船に乗って『良かった』と言ってもらえたり、大勢の前で拍手をもらえたりするのは、この仕事ならではの喜び」と充実した笑顔を見せます。

「去年よりも上手に船を操りたい」と日々研鑽を積む波多野さん。今シーズンもその確かな腕で、多くの乗客を楽しませてくれるでしょう。



農業 × 鵜飼船頭



みなみ ゆうすけ
南 佑輔さん

南さんは、椎茸の生産、加工、販売を手がける椎茸農家としての顔と、小瀬鵜飼の船頭としての顔を持つ「兼業船頭」です。

椎茸の収穫がオフシーズンに入る時期、知人から小瀬鵜飼船頭の話聞いたことをきっかけに、南さんは小瀬鵜飼に出会いました。そのとき初めて目にした鵜飼の幻想的な雰囲気魅了され、すぐにその世界へ飛び込むことを決意したといいます。

「体力的に厳しい場面も多々あった」と語る南さんですが、3年間の見習い期間を経て、令和7年に1等船頭としてデビュー。今期も力強く船を漕ぎ、小瀬鵜飼を支えています。



あなたも船頭に
挑戦してみませんか



関遊船株式会社では船頭の担い手を随時募集しています。はじめは見習いとして活動していただきますが、確かな技術を身につけた船頭たちが手取り足取り教えます。小瀬鵜飼の船頭に受け継がれてきた伝統を守り継承していくため、新たに船頭として活動してみませんか。